

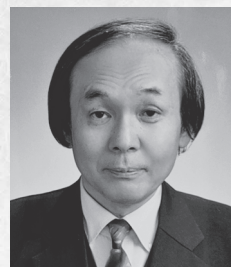
# 化学教育 徒然草

## 「S君はITの進歩に追いつけない？」

SHOJI Ryuichi

莊司隆一

筑波大学附属中学校・高等学校 非常勤講師  
元 化学教育フォーラム企画小委員会委員長



巻頭言

筆者が学校の教員になってから、約40年が過ぎた。この間、教育の現場では科学技術（特にIT関連）の進歩による様々な変化があった。授業に使うプリントを例に挙げると、教員になった当時は、すでにガリ版・鉄筆の時代は終わり、手書きの原稿をオフセット印刷するという時代であった。その後、ワープロが登場し、活字でプリントが作れるようになった。漢字、ひらがな、カタカナの混じった日本語を処理する技術は、素晴らしいと思った。

やがて、ワープロはパソコンにとって代われ、2000年を過ぎたころからは、原稿はワードで作成し、デジタルの写真を貼り付け、メールで送受信するようになった。また成績処理はエクセルで平均点、順位、偏差値まで、簡単に計算できるようになり、学会発表や講演では、OHPやスライドプロジェクターではなく、パワーポイントを使うようになった。これらの変化は、教育の現場に多くの恩恵をもたらした。

40年前に教員になった私（以下、S君と呼ぶ）は、IT技術は必ずしも得意でなかった。何故かという、第一にアイコンの意味がわからない。この記号は何を意味しているのか？なぜ、言語で書かないのか？第二に画面がスクロールされてしまい、前後が見えない。こうなるとS君や同世代の人間は、思考力が働きにくくなるのだが、若者達は大丈夫らしい…？

パソコンの学校に通ったり、周囲の人たちに聞いたりしながら勉強し、なんとか時代の変化に追いついていった。ところが、いまや、成績処理は、どこの学校でもなにやら複雑なオンラインシステムとなっている。そして2020年からのオンライン授業では、Google ClassroomやZoomなどを使う必要が出てきた。これも周囲の人たちに聞きながら、なんとかついていっているが、この先、一体何が現れるのであろうか？

多くの恩恵があるのはよく理解しているつもりではあるものの、いくら学んでも、マスターしたところには、技術はさらに先に進んでいる。一見、アキレスがカメに追いつけないように、典型的な「昭和のおじさん」であるS君は、IT技術の進歩に追いつけないというあきらめの境地にも陥る。実際には、時間と労力をおしまなければ、追いつけるはずである。生涯学習の時代というのなら、研修の時間と費用をどのように捻出するかを示してほしいものである。

[連絡先]

112-0012 東京都文京区大塚1-9-1（勤務先）